

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 清水三保の家
(ユニット名)	1号館
所在地 (県・市町村名)	静岡県静岡市清水区三保3503-74
記入者名 (管理者)	管理者/桜田 説子 計画作成担当者/戸田 保子
記入日	平成21年 6月10日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念 「家庭的な環境の中でゆったりとした生活を、そして一人一人が役割を持ちながら楽しく暮らす、そんな「住まい」を目指します。 私たちは、「ゆっくり」「一緒に」「楽しく」暮らせる、高齢者のための「第二の住まい」づくりをします。」	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	“利用施設”というより「入居者個々の第二の住まい」であることを大前提とし、入居者一人一人の意思や希望をくみ取り、特性や残存機能を無理なく生かせるよう、自然に寄り添い見守ることを心掛け取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	「理念」そのものを具体的に提示、告知はしていない。 しかし日々の取り組みを家族へ個別に報告したり、運営推進会議で家族や地域の方々に向け発表することで、ある程度の理解を得られていると思っている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日課である公園への散歩で会う地域の方とのあいさつを心掛けており、顔なじみも多く地域の方から、見かけない入居者を心配する声を掛けていただくこともある。 近隣からの入居者には隣近所の方の面会も多く、入居者のひ孫である小学生が友人を連れて遊びに来ている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩で利用している公園で行なわれる夏祭りには毎年参加しており顔なじみの地域の方から声を掛けていただいている。 ドブ掃除は実施日時に参加できないことが多いため、回収袋と薬剤をいただき、独自に実施している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	居室に空きが出そうな状況になると、地域のデイサービス等の事業所へ連絡し、認知症でグループホームでの支援が必要とされる高齢者やその家族の役に立てるよう、地域優先の情報提供を心掛けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果は管理者から地域責任者→運営者へ報告し、管理者からフロアリーダーへ報告、説明があったうえ、今後の改善策や取り組みについて話し合う。 フロアリーダーから職員に指摘事項など評価内容を伝え、評価資料を回覧し、具体的な改善策について話し合い取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で評価結果資料のコピーを配布し、評価内容、指摘事項について具体的に説明したうえで、今後の改善への取り組みについての職員の話し合いの内容を報告し、さらに家族や地域の方々から意見を求め、更なるサービス向上に活かせるよう努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護受給者の入居希望に関するやりとりは、当事業所の担当者以外の生活支援課職員や、別区の高齢介護課職員の方が多い。 病院や施設に入所中の見学者には市職員の方も同行されるため、十分な説明ができ迅速な対応を心掛け、サービスの向上につながるよう取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	運営推進会議で成年後見人の方から参加者に制度の説明をしていただき、学ぶ機会を提供している。 また入居者の状況に応じ、市の職員の方や社会福祉協議会とも話し合い、入居後に制度の利用を始めた事例もある。	○	新入職員への制度の説明指導等、職員全員が理解を深めるよう継続的に取り組んでいきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内の必須課程に高齢者虐待について盛り込まれているので学ぶ機会があり、レポート提出も必須なため、職員の理解をより深めるよう努めている。 仕事に対するストレスから言葉の暴力につながることもあり、ケアマネや他フロア職員からの指摘を受け入れ、職員の話し合いを重ね改善、予防に取り組んでいる。	○	職員の言葉や態度について、結果的に虐待となっていることがある。 日々のケアの中で職員が言い訳をして正当化してしまっている対応について、根本的に意識改善をしていきたいと考え、現在職員との話し合いを重ね取り組んでいる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年定期回数の課程が本部で開催され、遠隔地で出席できなかった場合はビデオにて受講しレポートの提出を義務付けられている。 外部主催の研修については本部より受講指示があるものについて参加している。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の施設や病院を利用している入居希望者が先方職員と見学に来所した際説明するだけでなく、現在の施設での様子を把握するためこちらから職員が訪問したり、先方の職員から日常の様子や取り組んでいる問題や特徴を聞くことで、ケアやサービスの質の向上につなげるよう取り組んでいる。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	各階事務室に本部のホットラインが掲示しており、職員が抱える悩みについて相談できる電話窓口を設けてある。	○ 職員は常にストレスと隣り合わせであり、毎日の積み重ねで根深く修復が困難にならないよう、職員個別に対話ができる機会や時間を設けたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格手当、必須課程と自由課題の研修レポートの提出で年間数回の手当てが支給されたり、遅刻3回で欠勤1回となる等の個別評価があり、基本給アップや通勤手当の改定の予定もあり、個々が更に資格取得に意欲を高める原動力になっている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に本人が見学に来所した際は、なるべく本人と対話する時間をつくり、本人の意思、不安をくみ取れるように心掛け、見学が困難な場合は利用施設に職員が訪問し、本人との対話時間を設けよう努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	今一番困っていること、不安に思っていること、今後の希望について話していただき、本人の前で話せないようなことがあれば、本人と家族を別の職員が対応し、家族のみで話を聞く機会を設けるよう取り組んでいる。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の現状を把握し、ホームでの生活が可能かどうかを身体的、金銭的など総合的に判断したうえで、必要可能なサービスの支援をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の今までの生活の流れを本人と家族から聞き取り、と照らし合わせながら、本人の意思や希望を聞き、ホームでの生活の流れにのせるように職員は寄り添い、継続したいこと、盛り込めることがあれば話し合い支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事や自分の持ち物の片付けなどできる方にはできるだけ参加してもらい、職員と共に生活の中での役割を持つように支援している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	病院受診にできるだけ家族が付き添いできるよう、必要であれば送迎などの支援をし、入居者が家族とのかかわりを持つ時間ができるよう取り組んでいる。 職員が病院受診に付き添った場合は家族に必ず報告し、本人の意思を伝え家族と相談をしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族のこれまでの経緯についての把握に努め、本人と向き合い、本人の行動や言葉の変化を家族にありのままに伝え問題を探り、よりよい関係に向け支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者が利用していた施設のボランティアの方からの手紙に返事を送る支援をしたり、入居者が以前住んでいた自宅を見に散歩の途中で訪れたり、その際声を掛けてくれる近所の方へホームへの来訪を呼びかけたりしている。	○	年賀状、暑中見舞いなどを通して馴染みの人との関係継続や疎遠になっている家族への関係改善に向け支援していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者間関係の把握に努め、思い込みや誤解から入居者が孤立しないよう、必要であれば職員が間に入り補足説明をしたり、助言している。	○	実際孤立がちな入居者があり、今後も職員が間に入り利用者同士がよりよい関わりが持てるような支援に取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	本部の療養型病院へ転院となった利用者には、職員が本部へ行った際は必ず面会を実施し、親しかった入居者からの手紙を支援し届けたり、家族が遠方で面会の機会も少ないため、利用者の様子を今でも電話で報告している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望、意向、好みを把握するよう心掛け、自立の程度を踏まえながら、できる限り本人の意向に沿うように努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に利用していたサービスの担当者から、これまでの生活歴を聞き取り、本人の経過、経緯の把握に努めるだけでなく、入居後も本人や面会の家族、知人の方等いろんな視点からの話を聞き、いろんな背景も含めより詳しく把握するよう心掛けている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するよう努めている	本人のペースで一日が過ごせるよう、本人の言動や様子から意向や意欲を予測し、声掛けにて把握に努め、無理のないような支援を心掛けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意思、意向の把握に努め、家族へ報告、相談しながら、本人に変化があれば職員がケアについて意見を出し合い、必要であれば対応法を変えて取り組み、介護計画にも反映させるよう作成に取り組んでいる。	○	課題と本人本位のケアのあり方について、本人や職員との話し合いの場を増やし、原因追求にも努め、チームとしての方向性をしっかりと持ち、入居者の変化に合わせながら職員の意識改革をしていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人の状況の変化を家族に報告、相談したうえで本人との話し合いから意向を引き出し、介護計画を見直し、新たな取り組みを実践しているが、迅速に介護計画の書面作成が追いついていない現状もある。	○	ケアマネが新しく採用されたことで、現場に即した介護計画の見直し、新たな計画の作成が迅速に対応できるよう、効率化を計る為の改善にも連携して取り組んでいる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の変化を行動や言葉から察知し、気づきを個別記録に記入するよう努めている。 また職員の申し送りノートに入居者の変化やケアの内容について簡略して書くことにより、職員の迅速な情報共有やケアの統一に活かし、入居者の変化に即した介護計画の見直しにも活かしている。		目まぐるしく変化する入居者の感情や状況について、職員がより詳しく共通した把握に努め、ちょっとした気づきについても記録を更に残し、入居者の変化に合わせた本人本位の介護計画への見直しに活かしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の状況に応じ、かかりつけ医や入院先の担当医との話し合いをし、本人や家族の要望があれば本部の療養型病院に優先的に転院できるよう支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	入居前の担当民生委員の方が面会に来所されたり、散歩途中で声を掛けてくださったり、継続して支援していただいている。 運営推進会議には地区の民生委員の方に出席いただき、年2回の消防訓練には地域の消防署に参加、指導いただき支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居前に利用していた施設のケアマネや担当者との交流はあるが、他のサービスを利用するための支援はしていない。	○	他のサービスを活用することで、本人がより良い生活を送ることができるなら、本人の意向や必要に応じ具体的に検証し、支援に取り組みたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護の制度を利用している入居者がおり、毎月の利用料の支払、お預かり小遣い金の引き出し等、金融関係の支援を社会福祉協議会と協働している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかりつけ医について本人と家族に説明し、本人の状況について紹介元の担当医とも相談したうえで納得が得られたかかりつけ医で定期的な受診の支援をしており、必要であれば総合病院への紹介の対応、アドバイスも受けられる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	7月より市内の同グループ施設に勤めている看護師が定期的に市内のグループホームを回り、日常の健康管理に努め、医療の活用に活かせるよう支援していく予定である。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	できるだけ早い段階から本人や家族、かかりつけ医との話し合いの時間を持つよう取り組んでいきたい。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	個々の心理に配慮し、内容により他入居者の前での言葉かけを避けるなど対応を見極めるよう取り組んでいる。 個人の記録に関する書類を記録する場合は入居者の目に触れないよう配慮し、所定の場所での保管を徹底している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人が自己解決できず悩んでいる時に、自分の意思や希望が引き出せるような言葉かけをしたり、回答、解決策が導き出せるように説明し誘導していく支援をしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の入居者の体調を把握し、本人の意思、希望を伺いながら支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容師、美容師が定期的に訪問し、ホーム内でカットができ、長さや髪形の希望、顔剃りにも対応している。 本人の希望でなじみの美容室への手配、送迎も支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の意思を尊重しながら、もやしのヒゲ取りや食器拭き、収納、トレー、テーブル拭き等に参加し、職員と一緒に取り組んでいる。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒、たばこは家族の希望により提供していない。 10時に好みのコーヒーを提供しているが、糖尿病の方にはノンカロリーシュガー、ミルク抜き、本人の希望によりミルク抜きなど、個々の好みや体質に応じたサービスを提供している。 おやつに関して糖尿病の本人希望により週2回に限定して	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンの把握に努め、失敗を減らしトイレでの排泄ができるようトイレ誘導の時間を状況にあわせ予測し支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	水、日曜日は休浴日と決めているが、意思決定に問題がない入居者は入浴するか、先髪するかは本人の意思で決めている。 入居者が入るタイミングは状況を把握したうえで無理のないような声掛けに努め支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間見当識障害の入居者には呼び声が続けば不安解消のための声掛けや、トイレ誘導の対応をし、落ち着くまでベッド横に添うなどして安眠の支援をしている。 状況に応じ昼寝により安心して休息がとれるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	衣類の整理ができる入居者には収納、管理を行なってもらい、日課の散歩で車椅子を押す役割を支援したり、脳トレーニングのためのドリル取り組みについて支援している。 自発的に取り組んでいる手芸に関しては時々声を掛け進捗状況を把握し、無理のない継続を促すよう支援している。	○	ボランティアの慰問を取り入れ、適度な気晴らしができるような環境作りに取り組んでいる。 今後も受け入れの機会を設けていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の希望により、自己管理が支援によりできる入居者は所持し、買い物の際、本人が使えるよう支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩は日課であるが、本人の希望を取り入れコースや距離を決め支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	地域の行事にはなるべく参加できるよう、七夕祭りには車で送迎したり、他の入居者と一緒に出かける機会をつくり支援している。	○	家族と一緒に参加し外出する機会を設け、より多くの家族が参加、家族との交流を深める時間の提供を支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の意思で所有の携帯電話から家族や知人に電話をかけているが、家族から携帯の調子が悪いのではと申し入れがあれば本体の確認を実施している。 本人の意思で手紙を書き、職員に投函の依頼があれば預かり、投函を代行している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	本人と面会者が他入居者に気兼ねなく話ができるよう、居室に案内している。 入居者の小学生のひ孫が友人と来所し、本人がひ孫だとわからなくても、子供達に歌を依頼し、他フロアへの訪問もお願いし、また来てもらえるよう呼びかけをしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロのケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の数が十分に配置されている時にはホール出入口の電気錠は開錠している。 居室の内側からの鍵は本人の意思に任せている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員同士の情報交換を密にし、入居者に配慮しながら個々に合った安全確認をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険が伴うものは預かるようにし、必要な時に使用できるよう支援している。 本人がこだわっているトイレットペーパーは本人が安心でき、コントロールできる量を提供し、いろんな隙間への詰め込みやトイレへの投げ込み等の被害を最小限に抑えるよう取り組んでいる。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	救急法についての講習を開催し、職員のほぼ全員が受講しており、年2回の消防訓練では水消火器を使用しての消火訓練を実施しており、事故防止に取り組んでいる。	○	救急法と水消火器での消火訓練は、今後も継続して職員全員の参加に取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急法についての講習を開催し、初期対応についての訓練は実施したが、定期的に行なっていない。 また職員が個別に講習に参加しているがバラつきがある。	○	定期的に応急手当や初期対応の訓練を実施し、職員全員の参加に取り組み、必要物品を万全に備えたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防訓練の中で搬送法の訓練を行なっているが、夜間は夜勤者だけで階上の利用者を避難させるのは困難である。 運営推進会議でも課題として取り上げているが、具体的な協力体制や取り組みには至っていない。	○	地域の方々の協力を具体的に得られるよう、地域の防災訓練にも参加し、関係各所への呼びかけに取り組んでいきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時に居室が個室であり、身体拘束ゼロ運動に取り組んでいる為、転倒等のリスクがあると家族に説明をし、理解を得たうえで防止に向け話し合い取り組んでいる。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の食事の様子、排尿、排便、血圧の状況を把握し、ちょっとした変化にも気付くよう努め、わずかな気付きを記録に残したうえで職員間の申し送りで、更に情報を共有するように心掛け、迅速な対応につながるよう取り組んでいる。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の効果、副作用についての情報表は、いつでも見られるように個別ファイルに閉じてあり、理解に努めている。 配薬、服薬の確認を徹底し、症状により服薬の調整も行なっている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	入居者の排便状況を把握し、個々の排便サイクルの理解に努めたうえで排便を促すマッサージやケアに取り組んでいる。 水分補給の支援、食事も工夫し、状況により薬の調整も行なっている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	要介助の入居者の力に応じ、毎日就寝前に入れ歯を外し口腔ケアの支援を行なっている。 但し食事介助が必要な入居者は口腔内に食べ物が残りやすく、その時は入れ歯を外し、口腔内に残っている食べかすを書き出し可能なうがいも実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	慢性的な糖尿病、高血圧の方にはもちろんだが、全入居者に対し塩分、糖分、量等も個々の疾患、運動量に配慮し合わせるようにしている。 また本人より無理のない量の要望があり対応している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	本部より年2回院内感染等に関する研修ビデオの課程を受講。 レポートの提出が義務付けられている。 毎年インフルエンザ予防摂取は入居者、職員のほぼ全員が受けている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日決められた食器類、調理器具類を次亜塩素酸ナトリウム水溶液で消毒を実施している。 職員はケア用、台所用のエプロンを区別し、衛生管理に努めている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前に季節の花を植えたプランターを置き、日中は玄関を開放し出入しやすいようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、CDの音等が不快にならないよう心掛け、観ている方がいなければテレビは消し、会話がはっきりと聞こえる環境を提供している。 ホールには、大きな字で日付が見やすい日めくりがあり、月を表す色紙が季節の花が飾られ季節を演出できるよう努めている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファが置いてあり自由にくつろげるようになっているが共用空間の中で独りになれる場所はない。 気の合う入居者同士ではお互いの居室を訪ね合うこともある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら馴染みの家具や物に囲まれて、少しでも安心できる生活が送れるようにと案内している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室を締め切っていないがちな入居者には声掛けして、換気を習慣づけるよう支援している。 空調に頼り過ぎることのないようにできるだけ外気を取り入れたり、入居者の衣服で調節するよう支援している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	トイレや浴室、廊下の手すりを活用し声掛けにて自立を促している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人の理解度を観察しながら、個々の力に合った目標を設定し無理のない取り組みを心掛けている。 脳トレのドリルの場合、寄り添い一緒に問題に取り組むが、最終的には本人の意思で答えが出せるよう支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関付近の外周りにベンチが置いてあり、散歩の行き帰りに周りの花を楽しんだりベンチでくつろぐことができる。 またベンチの横には水道の蛇口があり、花に自由に水やりもできる。		

V. サービスの成果に関する項目	
項目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
	<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> ③たまにある
	<input type="radio"/> ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

日課の散歩は、一日の始まりとして入居者んの皆さんの生活の一部となっています。皆さんの楽しみで、入居者同士、スタッフとのコミュニケーションをの時間でもあり、他のフロアーの方や近隣の方との交流の場となっています。日々代わる木々や草花の様子から季節を感じ、毎日変化する富士山の様子はお決まりの話題でもあり、恵まれた立地環境を十分に活用しています。また、入居者の方の体調だけでなく内面的な変化の様子をキャッチする大切な時間でもあります。気になる様子があればスタッフ間で報告し合い記録に残し、原因を探ったり「早期発見」を心掛け取り組んでいます。日課の散歩が終わった後でも入居者の方が不穏や落ち着きがなくなる等の様子があれば、他フロアーへ訪問したり再度散歩に誘い個別に話を聞く時間をつくる等、できる限りの対応をすることを心掛けています。